

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**(仮称)京都真山ホテル開発計画**

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		評価点	重み係数				評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>											<b>3.0</b>	
<b>Q1 室内環境</b>												<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>												<b>3.2</b>
<b>1.1 騒音</b>												
1.1.1 騒音							<b>3.8</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00		
1.1.1.1 室内騒音レベル							<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40		
1.1.1.2 設備騒音対策							<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00		
1.1.2 遮音							<b>5.0</b>	0.40	<b>3.5</b>	0.40		
1.1.2.1 開口部遮音性能							5.0	1.00	5.0	0.30		
1.1.2.2 界壁遮音性能							-	-	4.0	0.30		
1.1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	-	3.0	0.20		
1.1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	-	1.0	0.20		
1.1.3 吸音							<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20		
<b>2 温熱環境</b>							<b>3.0</b>	0.35	<b>1.9</b>	1.00		<b>2.1</b>
<b>2.1 室温制御</b>							<b>3.0</b>	0.50	<b>2.1</b>	0.50		
2.1.1 室温							<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	0.57		
2.1.2 負荷変動・追従制御性							-	-	-	-		
2.1.3 外皮性能							<b>3.0</b>	0.25	<b>1.0</b>	0.43		
2.1.4 ゾーン別制御性							<b>3.0</b>	0.38	-	-		
2.1.5 温度・湿度制御							-	-	-	-		
2.1.6 個別制御							-	-	-	-		
2.1.7 時間外空調に対する配慮							-	-	-	-		
2.1.8 監視システム							-	-	-	-		
<b>2.2 湿度制御</b>							<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20		
<b>2.3 空調方式</b>							<b>3.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.30		
<b>3 光・視環境</b>							<b>2.6</b>	0.25	<b>2.6</b>	1.00		<b>2.6</b>
<b>3.1 昼光利用</b>							<b>1.8</b>	0.30	<b>1.8</b>	0.30		
3.1.1 昼光率							1.0	0.60	1.0	0.60		
3.1.2 方位別開口							-	-	-	-		
3.1.3 昼光利用設備							<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40		
<b>3.2 グレア対策</b>							<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30		
3.2.1 照明器具のグレア							-	-	-	-		
3.2.2 昼光制御							<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00		
3.2.3 映り込み対策							-	-	-	-		
<b>3.3 照度</b>							<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15		
<b>3.4 照明制御</b>							<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25		
<b>4 空気質環境</b>							<b>3.5</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00		<b>3.6</b>
<b>4.1 発生源対策</b>							<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.63		
4.1.1 化学汚染物質							4.0	1.00	4.0	1.00		
4.1.2 アスベスト対策							-	-	-	-		
4.1.3 ダニ・カビ等							-	-	-	-		
4.1.4 レジオネラ対策							-	-	-	-		
<b>4.2 換気</b>							<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.38		
4.2.1 換気量							<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
4.2.2 自然換気性能							-	-	3.0	0.33		
4.2.3 取り入れ外気への配慮							<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
4.2.4 給気計画							-	-	-	-		
<b>4.3 運用管理</b>							<b>3.0</b>	0.20	-	-		
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視							-	-	-	-		
4.3.2 喫煙の制御							3.0	1.00	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>							-	0.30	-	-		<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>							<b>2.2</b>	0.40	<b>3.6</b>	1.00		<b>3.3</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>							<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60		
1.1.1 広さ・収納性							-	-	5.0	0.50		
1.1.2 高度情報通信設備対応							-	-	3.0	0.50		
1.1.3 バリアフリー計画							<b>3.0</b>	1.00	-	-		
<b>1.2 心理性・快適性</b>							<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40		
1.2.1 広さ感・景観							-	-	5.0	0.50		
1.2.2 リフレッシュスペース							-	-	-	-		
1.2.3 内装計画							1.0	1.00	1.0	0.50		
<b>1.3 維持管理</b>							<b>2.5</b>	0.30	-	-		
1.3.1 維持管理に配慮した設計							2.0	0.50	-	-		
1.3.2 維持管理用機能の確保							<b>3.0</b>	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>							<b>3.0</b>	0.31	-	-		<b>3.0</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>							<b>3.2</b>	0.48	-	-		
2.1.1 耐震性							<b>3.0</b>	0.80	-	-		
2.1.2 免震・制振性能							4.0	0.20	-	-		
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>							<b>3.3</b>	0.33	-	-		
2.2.1 躯体材料の耐用年数							<b>3.0</b>	0.23	-	-		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							<b>3.0</b>	0.23	-	-		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.09	-	-		
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.08	-	-		
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔							5.0	0.15	-	-		
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.23	-	-		

2.4 信頼性					2.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.29	2.4	1.00	2.4
3.1 空間のゆとり					-	-	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.31	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	風致地区にあり許可を得ている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.1
1 建物の熱負荷抑制					1.4	0.28	-	-	1.4
2 自然エネルギー利用					3.5	0.21	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	太陽光パネル設置	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					4.5	0.31	-	-	4.5
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=25.7%	4.5		-	-	
集合住宅の評価					4.0		-	-	
4 効率的運用					3.0	0.21	-	-	3.0
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護					2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.1	0.63	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.68	-	-	
1 消火剤				ODP=0かつ、GWPの低い断熱材を使用している	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					5.0	0.50	-	-	
3 冷媒					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮					3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				自転車、一般車両、搬入車両とも適切に配置	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	0.33	-	-	
2 振動					3.0	0.33	-	-	
3 悪臭					3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる